## GISを用いた危機管理ツールの開発

激甚化する災害に対して災害時のオペレーションを強化するため、地理情報システム (GIS) を 用いて危機管理関連情報を一元的に管理するツールの構築に取り組んでいます。

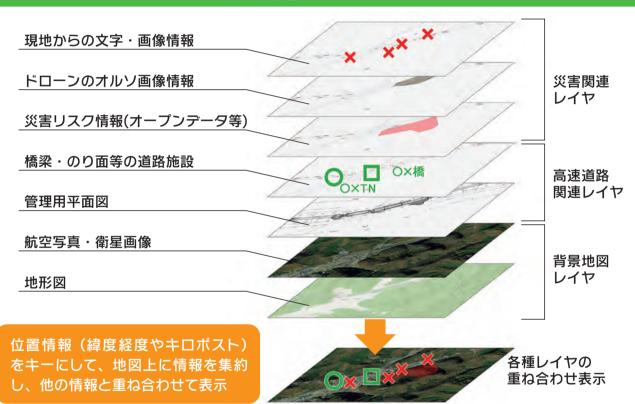
【ツール開発のねらい】

現地とのスムーズな 情報共有

情報の整理 (位置や時系列) スマホ・ドローン等の 新しい機器への対応

リアルタイムデータや オープンデータの活用

#### GISを用いた情報の一元管理のイメージ

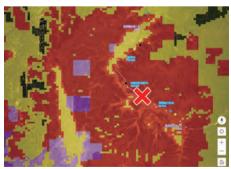




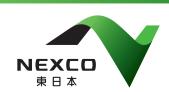
情報付きの情報をアップロード



きで情報が共有される



現地でスマートフォンやドローンから位置 遠隔地にあるバックオフィスに位置情報付 バックオフィスでは気象情報や災害リスク 等の他の情報と重ね合わせて対策を検討



東日本高速道路株式会社

# 活用 07イメージ

## 現地での活用方法

■スマートフォンやドローンで収集された文字や画像等の情報を位置情報付きでクラウドに アップロードされます。



## 活用 02 イメージ

### バックオフィスでの活用方法

- ●現地でアップロードした情報が速やかに地図上に表示されます。
- ●広域災害時には面的な情報把握が可能となります。



GIS上に位置表示(上部) 写真やテキスト情報が時系列順に表示(下部)



広域表示も可能 (地理院タイルに危機管理関連情報を追記して掲載)

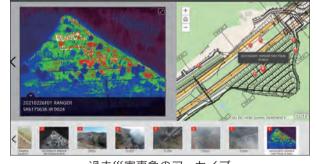
# 活用 03

## その他の活用方法

- オープンデータとの重畳表示により防災対策の検討に役立てることができます。
- 過去災害事象をアーカイブする事で、後の振り返り(防災訓練等)に役立てることができます。



オープンデータとの重畳表示



過去災害事象のアーカイブ 画面は開発中のものです

お問い合わせ先 東日本高速道路株式会社 管理事業本部 SMH推進チーム

〒100-8979 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビルディング(総合受付14F)

TEL: 03-3506-0111(代表) URL: https://www.e-nexco.co.jp